

NVC Monthly

同好会ニュース

寝屋川映像同好会会報

第49号(20130712)

発行 竹田 幸男



例会の窓

平成25年7月例会

日時 平成25年7月12日(金)

13:30~16:30

場所 寝屋川市民活動センター

4階 ワーキングスペース

出席者：新井 天野 石田 佐伯 竹下 竹田 谷 田淵(50音順・敬称略)

ゲスト：富田氏、小林氏

例会次第

1. 各会員の最近の活動状況・情報交換

・今日は前々回参加の富田氏の紹介で小林氏が富田氏とともに参加された。

2. 報告・連絡・協議事項

(1) NVC Monthly 7月記事筆者の件 (新井さん)

(2) 大阪アマチュア映像祭出品の件

- ・竹田さん「琵琶湖疏水物語」10分出品決定。
- ・もう1点は新井さんの作品を寝屋川映像協会の例会(7月21日)で決定したい。

(3) 映像北大阪 編集講習会の結果

- ・ハイビジョンをどう編集するか。
- ・6月28日金曜日 守口教育文化会館 10時～
- ・竹田さん、佐伯さんが出席。
- ・小林さん、富田さんおよび映像寝屋川から2名参加された。

(4) 市民文化祭作品を9月例会で締め切る。

- ・何を出品するかを 考えておくこと。
- ・1人1作品 10分以内。9月20日までOK。

(5) ふれあいフェスタ対策を

- ・11月9日(土)に市民活動センターで開催。
- ・新井さんが、碁・将棋クラブ撮影中。

(6) 次の撮影会について

- ・フリートーク
- ・何か食べに行っても?
- ・秋は映像寝屋川の幹事におまかせする。

(7) クラブ間(留学)制度の提案

- ・クラブごとに内容に特色があり、よいところを吸収する。
- ・各クラブの活性化と会員の技術向上を目的に、他クラブへ一定期間(たとえば半年単位で)参加する。人数は・上限を設ける?
- ・留学先の例会、その他行事に、留学先会員とともに参加する。
- ・会費は無料にするか、その期間の半額程度を臨時に支払うか。

(8) 小林さんが来られたので相互の自己紹介をする(省略)。

3. 映写・合評

(1) 谷さん 母とのポエム交換 7分

- ・おかあさんに向かって語りかける場面がほしい。最後は終わりでなく
ありがとうで終わっては。
- ・母の句は 色を変えてわかりやすくした方がよい。
- ・句の文字を 上の方から自然に 流れるように入れたらどうか。
- ・8ミリフィルムのたこ揚げの場面、白飛びしている。何処へ持っていか。

(2) 新井さん はす酒を楽しむ 7分

- ・三室戸寺のはすの花 一年に一日だけ開催
- ・最初の駅名の看板は、いらぬのでは。
- ・はすの花の映像が多い(連続して6カット)なので半分に減らしては。
- ・『苦かった』と言う声をカットした方がいいのでは。(中心人物以外の声
で声だけ入っている)

(3) 富田さん 唐津くんち 9分

祇園祭り 3分

- ・映像のピントが合っていないのでは? マニュアルに切り替わっていた
ためか?
- ・カメラのレンズが汚れているように見える。

(4) 竹下さん 東ヨーロッパ街角音楽拾遺」10分

- ・タイトル 音楽 ナレーションは女性の声にされた。8ミリビデオからD
VDにされたものを再びDVにされたので映像が粗いのは残念だが、いい
雰囲気をつまえている。

(5) 小林氏、富田氏が、映像同好会に入会された。

4 . 会員の当面する問題点質疑応答

5 . 来月の開催日(8 / 9)ワーキングスペースで。

6 次回のカメラ当番(新井さん)



《 私と映画 5 》

邦画についての感想

新井正直

前回の会報で、「黒部の太陽」が、手元に無いことを書きました。

裕次郎の遺志でビデオ・DVD化は長年封印されてきましたが、石原プロモーションの今年の新年会で石原プロモーション会長の石原まき子さんが、「東日本大震災復興支援を目的として、『黒部の太陽』を全国各所でスクリーン上映する」と、『黒部の太陽』の初のDVD発売を発表しました。ある方からDVDを貸して頂き早速観賞しました。

「黒部の太陽」は、木本正次氏が書いた小説のタイトルです。

1968年公開 監督：熊井 啓 出演：三船敏郎、石原裕次郎、榎山文枝、辰巳柳太郎、加藤武、宇野重吉らが出演して作られました。

あらすじ：昭和31年、富山県黒部川上流に関西電力が建設する第四発電所。資材運搬用のトンネル掘削は、熊谷組が担当することになって、現場責任者には北川（三船敏郎）が任命された。

熊谷組の岩岡源三（辰巳柳太郎）の息子である剛（石原裕次郎）は父の強硬なやり方に反発し設計技師となっていた。現場に赴いた剛はそこで体力が衰えてしまった父と、熱心に工事に打ち込む北川の姿を見て、工事に参加した。

私の記憶では、トンネル工事で破砕帯から大量の水が湧き出て工事が進まないが、懸命の努力で、貫通して終わるストーリーで、公開直後に見た時と同じ感動を得ました。

それ以外にも感動する事がありました。

映画会社でなく、独立プロの石原プロと三船プロが制作費を持ち、映画を共同で製作した当時としては珍しく、よくヤルナーと思っていました。

しかし、同好会の会報に、「私と映画」で投稿する事になっていろいろ調べている内に映画界の事情も解り、五社協定（映画会社間の共同制作や俳優の貸し借りの禁止）の問題を抱えた中で映画「黒部の太陽」という作品を製作するため、石原裕次郎、三船敏郎の二人にとっては、最大の難関で、その協定との圧力との戦い、二人の情熱で周囲が動かされ共同で製作をすることが出来ま

した。

次に立ちはだかった難問は、「黒部の破碎帯」と呼ばれる出水シーンです。撮影現場は実物大で作られ、撮影本番になって水が噴出する場面で、水が噴出してこないと思った瞬間に、地鳴りとともに濁流が来て出演者らが怪我を負ったこと、機材までも押し流されたそうです。

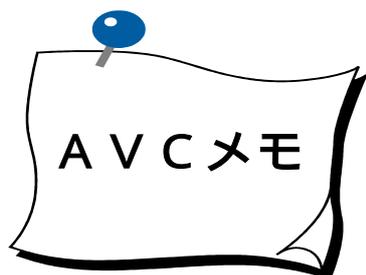
奇跡的にフィルムが一部残っていたために、この奇跡的な出水シーンが世の中に公開され、映画の中でこのシーンがもっとも感動を受けました。

今回の調査から解ったことですが、関西電力が映像化に踏み切った記録映画として、日本映画新社が制作した四部作があります。

第1作は1957年制作・第2作は1958年制作・第3作は1961年制作はシネマスコープによる制作でした。

そして、完全竣工後の1963年、「くろよん-黒部川第四発電所建設記録」を作成し、建設開始から完全竣工まで全ての映像が記録されました。

この記録映画も観たいものです。



揺れ戻し？

竹田幸男

ビデオ作品を拝見したとき、パンニングした画面で、たとえばカメラを左から右へ振ったとき、画面が右へ移動していき、移動の最後に、瞬間、ピュッと左に戻る場面（いわば揺れ戻し）が起こるのを良く目にします。ある作品発表会でもそういう場面を2・3作目にしました。同じような現象がチルト（カメラを上下に振る場合）にも起こりえます。

これは「手ぶれ防止装置・手ぶれ防止機能」の副作用です。最近のビデオカメラは手ぶれ防止機能が強化されていますので、このような場面での揺れ戻しが、特に気になります。

手ぶれ防止機能は、加速度センサーを使ってカメラが揺れても、レンズ系を揺れとは逆の方に動かして揺れる前の映像の位置と変わらないように見せています。このレンズ系の補正の動きを超えてパンニングをすると、レンズ系はパンニングを追いかけていきますが、パンニングを止めると、「やれやれ、終わった」とばかり、レンズ系を安定な位置へ戻します。この動作が画面では「揺れ戻し」のように見えるのです。このような画面変化を防ぐため、三脚を付け

て撮影する場合には「手ぶれ防止機能」をオフにするのが常識です。「え、そんなの知らなかった。」では困ります。

しかし、三脚とは言っても、がたつきのあるもの、雲台がスムーズに回転しないもの、少し望遠撮影をしようとするとき画面が揺れるようなものを使ったときは手ぶれ防止機能のご厄介になる場合も出て来ます。そういう場合は、手ぶれ防止機能の効果を加減できる機種では、機能を弱めるとか、揺れ戻しが起こらない程度にパンニング（チルティング）のスピードを遅くしてやるように加減します。どの程度ゆっくりパンニングすれば揺れ戻しが起こらないか、ご自分のカメラを使って練習しましょう。これは三脚を使わず、手持ちでパンニングする場合にも応用できるテクニックです。